

第5回甲状腺癌過剰診断国際シンポジウム

福島の甲状腺癌過剰診断問題：専門医に期待すること

10月5日（土）17時50分開始 19時30分閉会

司会 大津留晶（長崎大学・JCJTC 会長）

① 始めに：福島の甲状腺検査の現状について 緑川早苗（宮城女子学院大学）

② シンポジウム登壇者（登壇順）

関口裕士（北海道新聞 編集局編集委員）

原尚志（福島県立安積高等学校 常勤講師）

端野洋子（漫画家「はじまりのはる」「俺の初恋の人が兄とフラグを立てまくってつらい」）

音喜多駿（参議院議員 日本維新の会政調会長 東京維新の会幹事長）

*参加は無料です。今回は医療者対象のシンポジウムとなっております。一般の方は後日配信する動画をご覧ください。

*演者への質問についてはあらかじめ当研究会 HP「お問い合わせ」ページにお送りいただくか、当日ご用意させていただく用紙にご記入の上、提出してください。

開催場所：bell 関内 601 JR 関内駅すぐ（石の広場隣）

パシフィコ横浜ノースから 30 分です。ビルの表に看板はでていませので 6 階にお上がりください。

桜木町駅から：前より車両に乗り次の関内下車、南口正面の横断歩道を渡り右へ向かってすぐ。

みなとみらい駅から：次の馬車道駅下車、関内駅方面に向かい JR の線路を超えて駅舎に沿って 100m。



登壇者プロフィール

関口 裕士 (せきぐち ゆうじ)



北海道新聞編集局編集委員。1971年大阪府生まれ。京都大学文学部卒。美術予備校と信用金庫勤務を経て2000年に北海道新聞入社。紋別支局、室蘭報道部、東京政治経済部、本社報道センターを経て2019年から現職。高レベル放射性廃棄物や福島第1原発事故の後始末などの原子力や環境問題取材。連載企画「原子力 負の遺産」で2013年日本ジャーナリスト会議賞。著書に「核のごみ 考えるヒント」「北海道でSDGs」。

原 尚志 (はら たかし)



1985年より福島県立高等学校教諭（理科）。福島原発事故の直後から生徒と共に放射線量の測定や分析を継続的に行い、県内の高校生の個人被ばく量が自然放射線量程度であること等を国内外に発信してきた。2016年に生徒と投稿した論文はDL数11万件に達している。2015年からは福島県内外海外の高校生が震災後の福島の状況を学ぶワークショップを毎年夏に主宰してきた。現在は福島県立安積（あさか）高等学校勤務（常勤講師）。

端野 洋子 (はの ようこ)

福島県西郷村出身、漫画家。作品として「はじまりのはる」「俺の初恋の人が兄とフラグを立てまくってつらい」（いずれも講談社刊）他。

音喜多 駿 (おときた しゅん)



1983年東京都生まれ。私立海城中学・高校、早稲田大学政治経済学部卒業。LVMH モエヘネシー・ルイヴィトングループを経て、東京都議会議員を2期務め、2019年より参議院議員（東京都選出）。2023年より衆議院東京都第1区（千代田区・新宿区）支部長。日本維新の会政務調査会長、東京維新の会幹事長。ブログとYouTubeで政策情報を毎日発信する「ブロガー議員」。ステップファミリーで3児の父。